

長野県産業イノベーション推進協議会
第9回 長野県産業イノベーション推進本部会議 議事要旨

○日時：2022年1月19日（木）13:00～14:20

○場所：県庁本館棟3階 特別会議室、Teams 会議併用

議題1～3について、事務局及び関東経済産業局より説明。

出席委員からの主な発言は以下のとおり。

<議題1 産業界におけるカーボンニュートラルに向けた取組について>

- カーボンニュートラルは重要課題であり、企業も理解しているが進め方が分からない企業も多い。そうした状況でもあるので、県の見える化支援は入り口として有効。特に中小企業では燃料費高騰などでカーボンニュートラルへの意欲も高まっているので、インセンティブをつけた設計にすることが効果的。
- 脱炭素の先進地域である欧州では、部品メーカーを含めたサプライチェーン全体に排出削減目標を課す動きが出てきている。こうした動きに対応するためにも、カーボン排出量の可視化のサポートについては大いに推進すべき。
- カーボン排出量可視化のサポートについて、地域の事業者の声として関心はあるものの、具体的にどのように対処して良いか分からないという声が多い。こうした事業者ニーズへの対応のためにも、もう一步踏み出して取り組むことが必要。
- 重要なのは、省エネの取組によってそれが利益に繋がるということを実感してもらうこと。排出量の見える化だけではなく、その先の利益の見える化も合わせて取り組むことが必要。
- カーボン排出量の削減について、長野県として外からの技術導入を行うことで達成できるものと、自社の技術開発を促して達成しなければいけない目標を整理する必要。その中で、小水力やバイオマスは長野県特有のゼロカーボンに資する技術であり、普及の可能性を検討し、それに対する県の支援も検討出来れば良いのではないか。
- 本年度からカーボン排出量可視化・削減支援事業を開始したが、県内企業の関心は非常に高く、セミナーは定員を超える参加があった。そのうち製造業が約7割。関心はあるが具体的な削減の取組みになっていない状況にある。本事業は全国の公設試で唯一行っているもので、レベルも高いため、他機関との連携強化が今後の課題。

<議題2 信州ITバレー構想について>

- IT人材といっても、多様なタイプの人材が必要であり、対応する課題に応じて必要となる人材、技術も異なる。そのため、インフラとして、県内企業におけるIT人材のデータベースを作ってもらい、この分野の見える化を図ることが重要だと思う。

- IT企業について、今ではサテライトオフィスやコワーキングスペースなど立地戦略上多様な選択肢があるので、完全移籍せずとも地方に拠点を設けて交流機会を増やすことが重要。また、特に不足が顕著なITをはじめとする人材確保の観点では、兼業副業を通じて人材をシェアするという視点も重要。
- 県内で主に若年層の起業支援をやっている中で聞くのは、長野県内で通信環境が脆弱な地域がまだあるということ。通信環境が脆弱ということは、二拠点生活の拠点を検討する上で非常に問題。

(以上)